

平成24年度採択 文部科学省 大学間連携共同教育推進事業
「教学評価体制(IRネットワーク)による学士課程教育の質保証」


卒業生調査報告

—教学改善に向けての北海道大学の事例

北海道大学 高等教育推進機構

徳井美智代

アウトライン



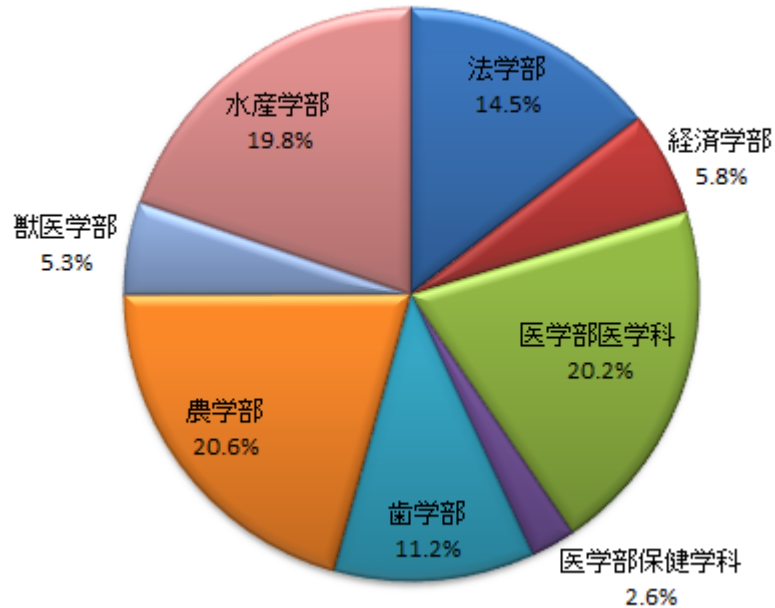
1. 2013年卒業生調査の概要
2. 2013年卒業生調査の結果
3. 教学改善への取組
 - 各部局へのフィードバック
 - 各部局との連携
4. まとめ

1. 調査の概要(北海道大学)

1. **調査目的** - 学生時代の教育や生活に関する意識、及び卒業後の大学とのつながり、卒業後の仕事の状況、大学教育への要望などを調査し、大学教育で身につけた能力と社会で求められる能力との関連について明らかにする。
2. **実施時期** - 2013年10月16日～10月31日
3. **対象外部** - 法学部・経済学部・医学部(医学科・保健学科)・歯学部・農学部・獣医学部・水産学部。
4. **調査対象者** - 学部卒業後5年(2008年)、10年(2003年)、15年(1998年)、20年(1993年)、25年(1988年)の卒業生。
5. **調査手法** - 各学部同窓会の卒業名簿をもとに対象者に直接調査票を郵送。回答は返信用封筒による郵送で、高等教育推進機構 IRネットワーク推進室にて回収。
6. **実施主体** - 高等教育推進機構 IRネットワーク推進室。
7. **実施協力** - 北海道大学 各学部同窓会。

1. 調査の概要(北海道大学)

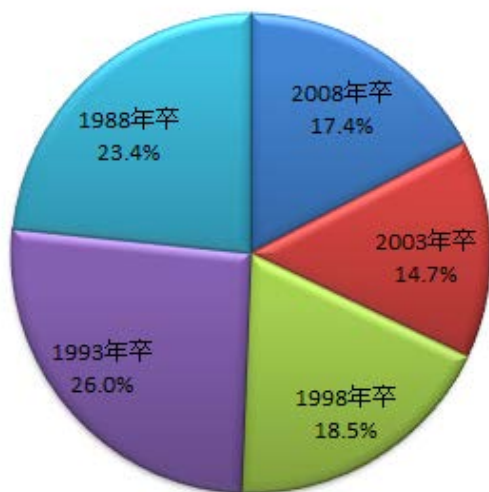
【調査票回収状況】



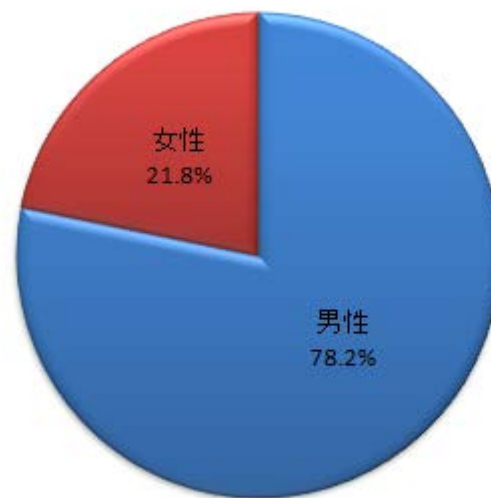
学部名	送付数	宛先不明	実質送付数	有効回収数	有効回収率
法学部	641	32	609	102	16.7%
経済学部	333	24	309	41	13.3%
医学部医学科	424	16	408	142	34.8%
医学部保健学科	83	9	74	18	24.3%
歯学部	218	3	215	79	36.7%
農学部	372	19	353	145	41.1%
獣医学部	152	19	133	37	27.8%
水産学部	580	46	534	139	26.0%
合計	2,803	168	2,635	703	26.7%

2. 調査の結果 - 回答者の属性

- 卒業年



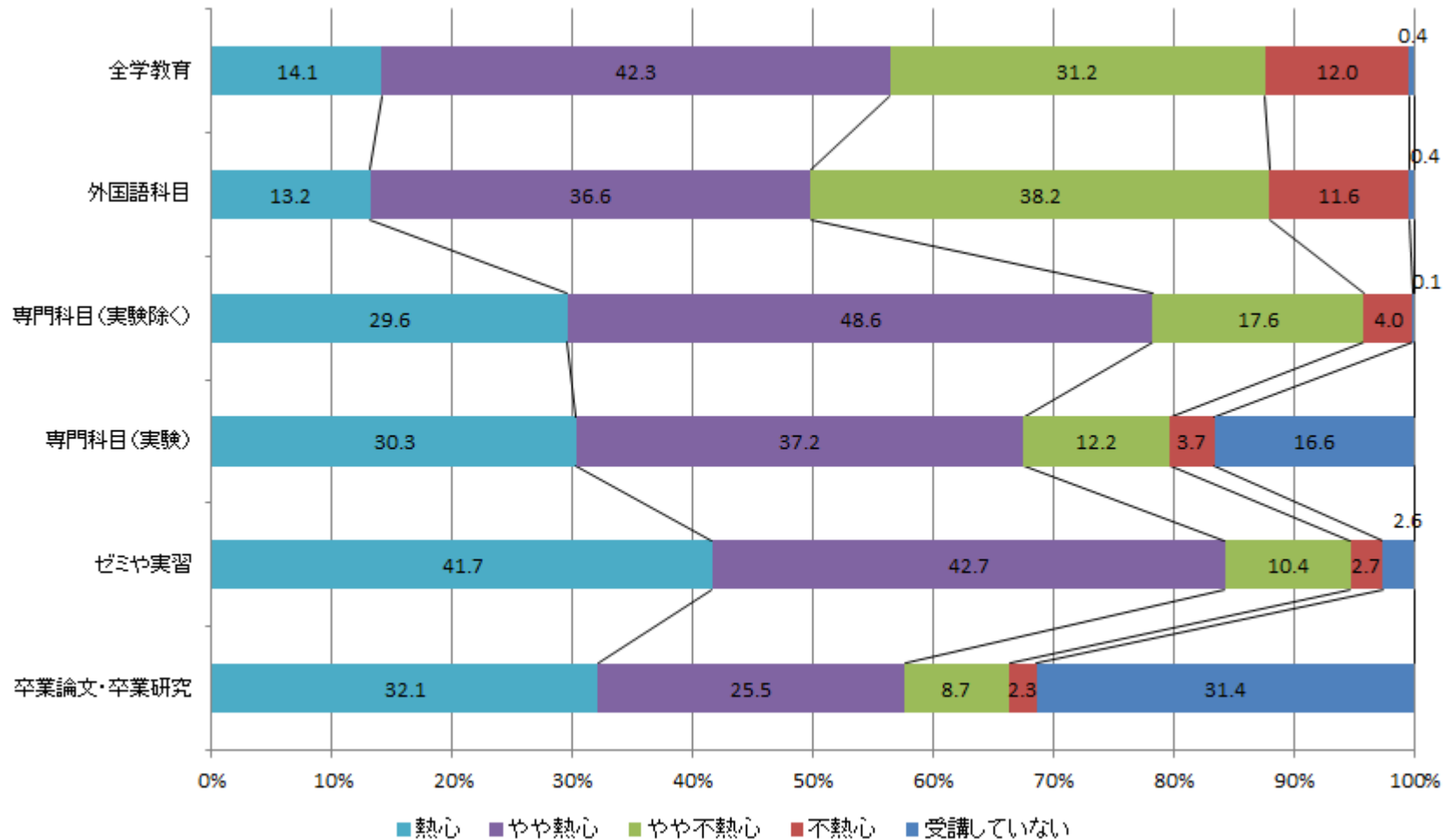
- 性別



卒業してから年数が経つほど回収率が高い

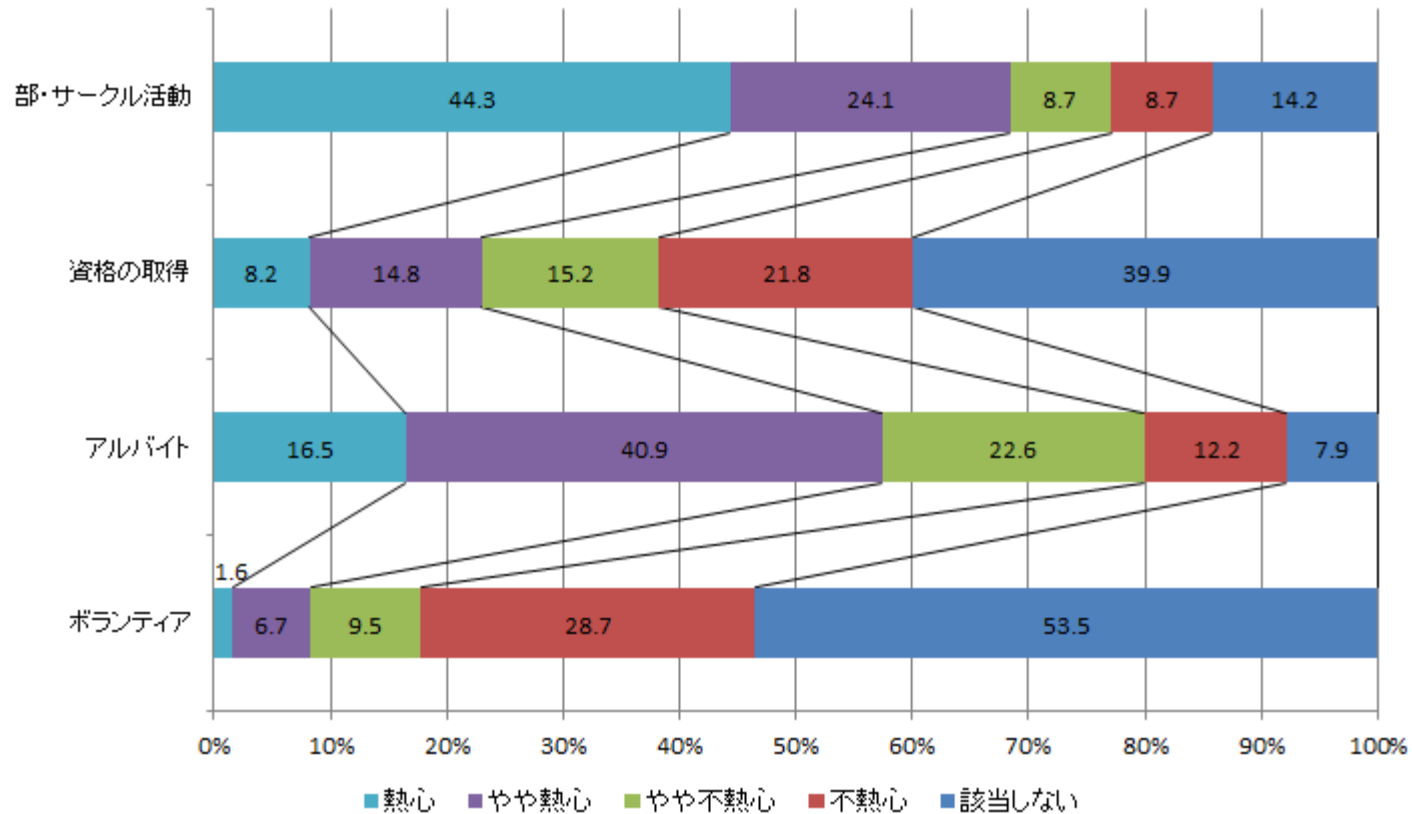
男性:女性 \approx 3:1

2. 調査の結果 - 大学生生活(大学の授業科目に対する熱心度)



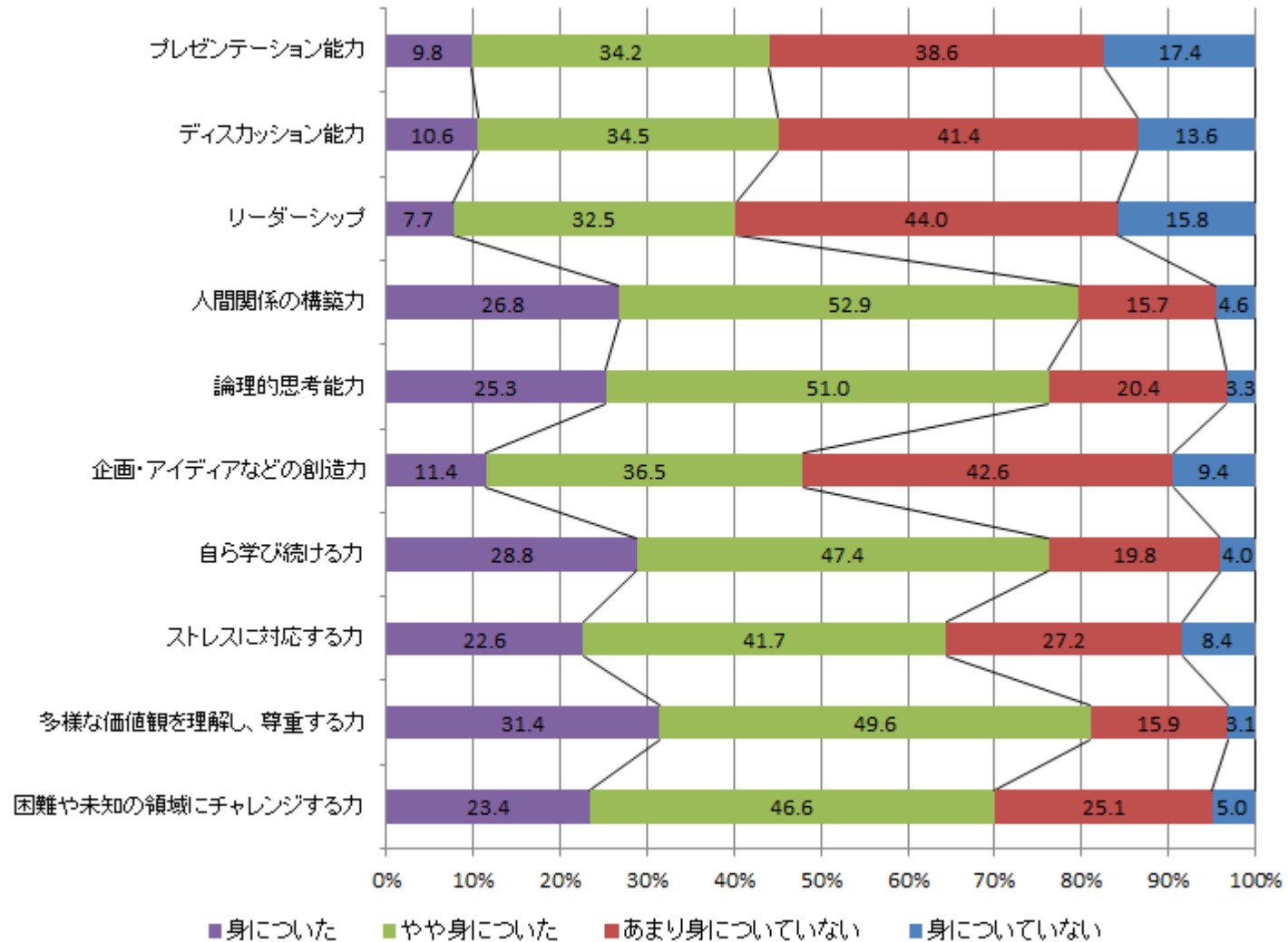
熱心度 「ゼミや実習」→高い 「外国語科目」→低い

2. 調査の結果 - 大学生生活(課外活動に対する熱心度)



「部・サークル活動」「アルバイト」→熱心に取り組んでいた卒業生が過半

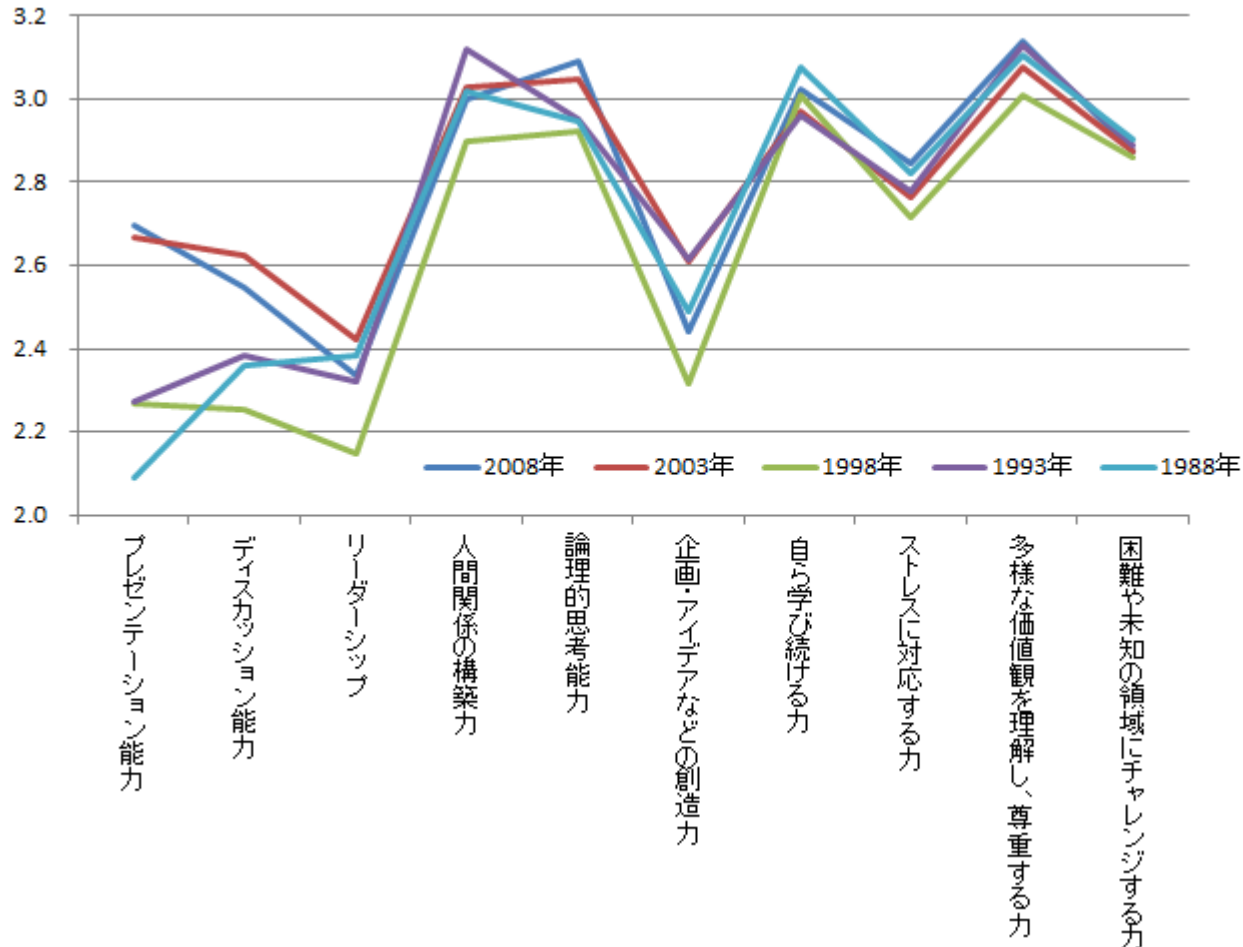
2. 調査の結果 - 大学生生活(大学在学中に身についた能力)



「リーダーシップ」→身についたと感じている卒業生割合が低い

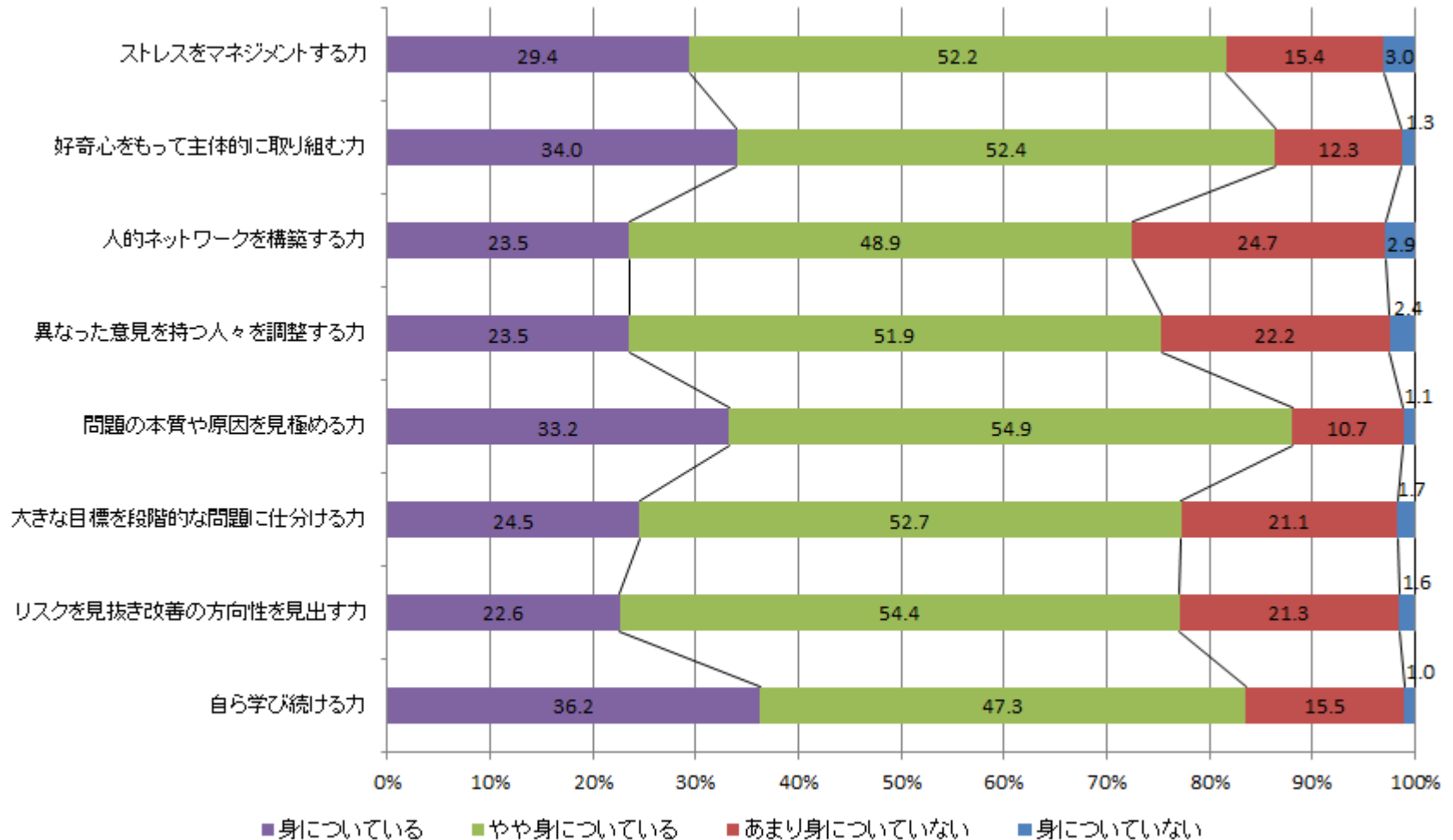
2. 調査の結果 - 大学生生活(大学在学中に身についた能力)

【卒業年別平均値比較】(「身についた」=4、「やや身についた」=3、「あまり身につけていない」=2、「身につけていない」=1として算出)



「プレゼンテーション能力」→卒業年代によって差が大きい

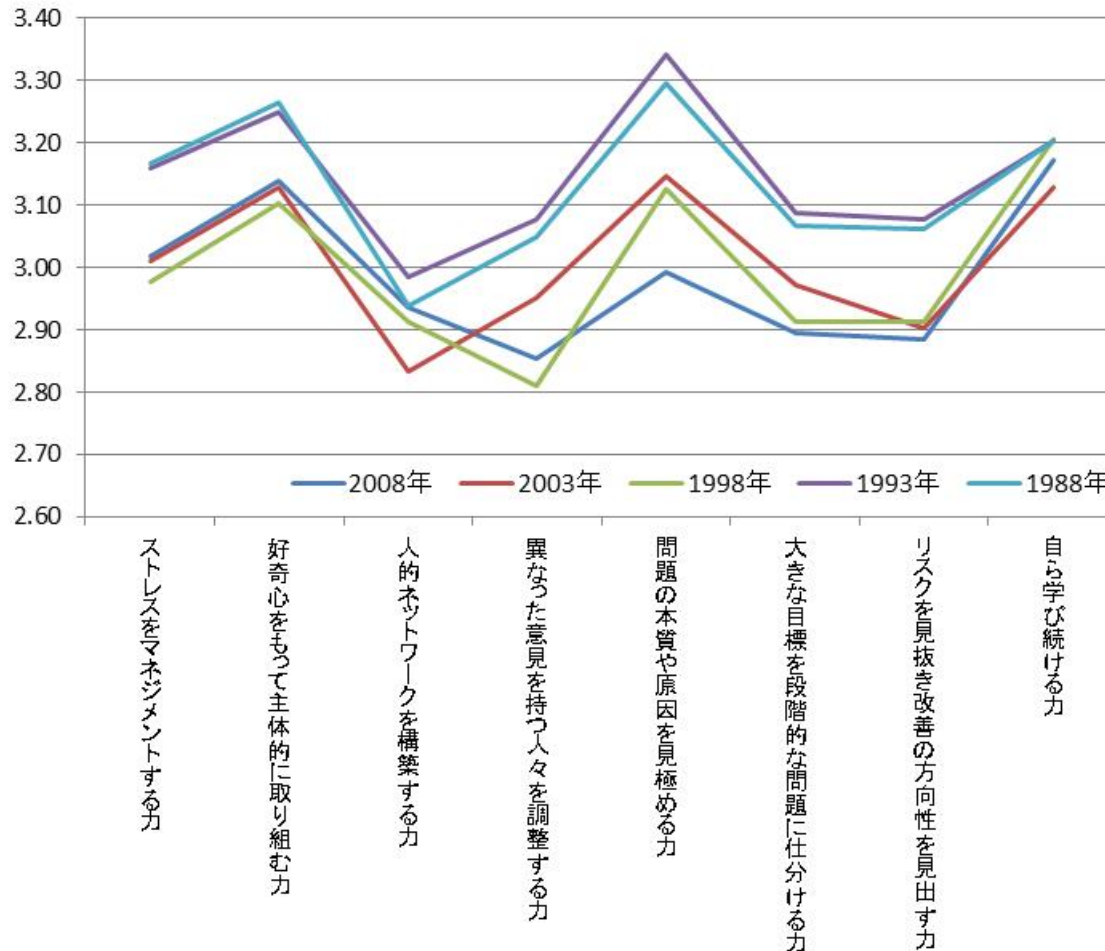
2. 調査の結果 - 大学卒業後（現在身につけている能力）



全項目で7割以上が能力の獲得を実感している

2. 調査の結果 - 大学卒業後（現在身についている能力）

【卒業年別平均値比較】（「身についている」=4、「やや身についている」=3、「あまり身についていない」=2、「身についていない」=1として算出）



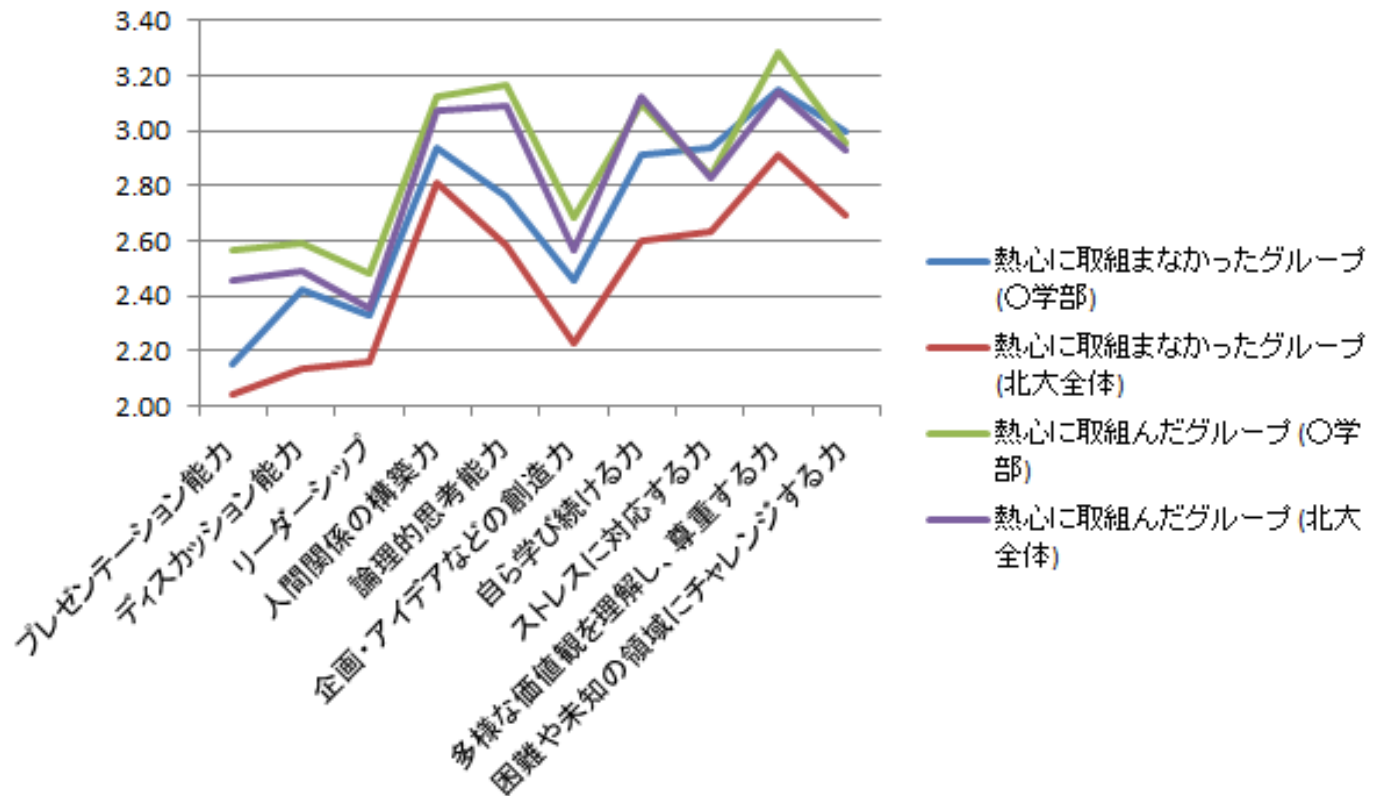
卒業後年数が経つほど身についている能力の自己評価が高い

3. 教学改善への取組 - 各部局へのフィードバック

【「大学の授業科目に対する熱心度」と「在学中に身についた能力」の関係】

「熱心」、「やや熱心」=「熱心に取り組んだグループ」。「やや不熱心」、「不熱心」=「熱心に取り組まなかったグループ」。
「身についた」=4、「やや身についた」=3、「あまり身につけていない」=2、「身につけていない」=1として平均値を算出。

○学部卒業生の
「専門科目(実験
除く)」に対する熱
心度と「在学中に
身についた能力」
の関係



○学部の専門科目に熱心に取り組んだ人ほど在学中に身についた能力の自己評価が高い。全学よりもその傾向は顕著。

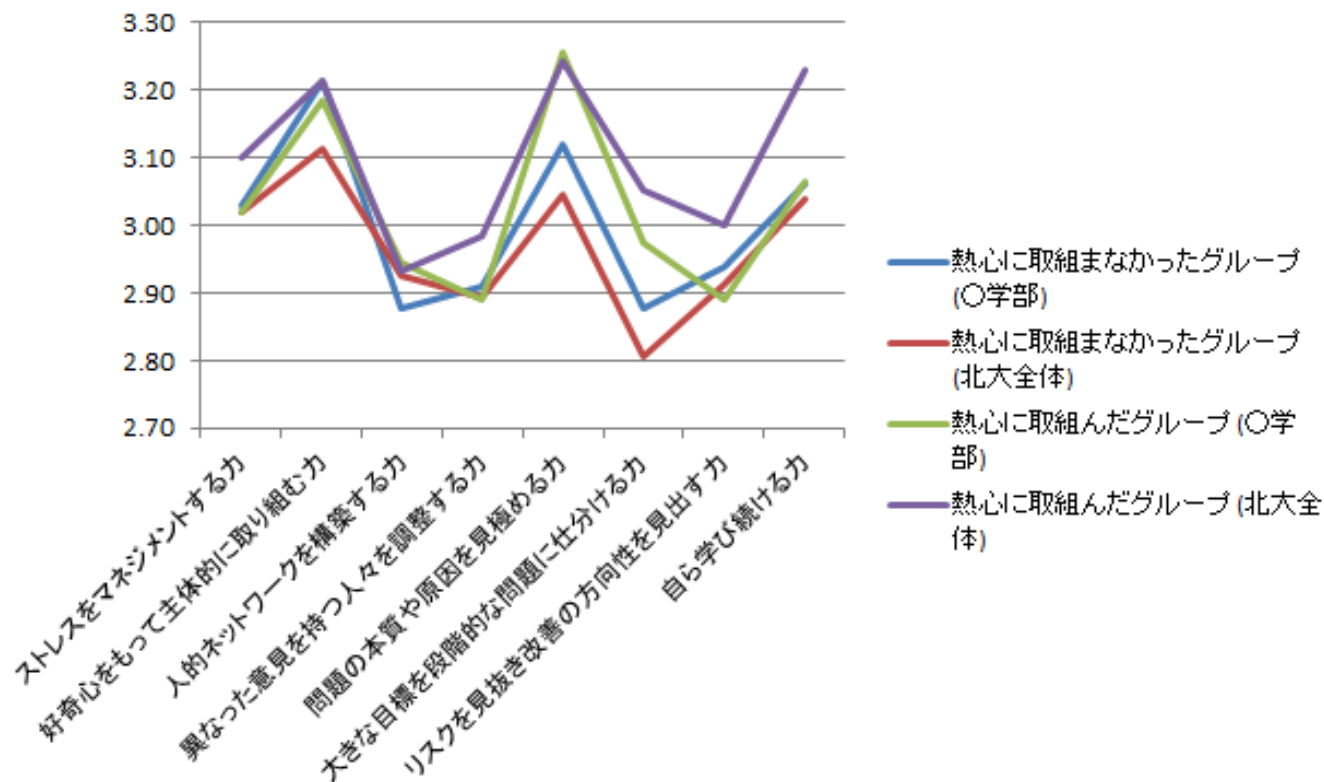
3. 教学改善への取組 - 各部局へのフィードバック

【「大学の授業に対する熱心度」と「現在身につけている能力」の関係】

「熱心」、「やや熱心」=「熱心に取組んだグループ」。「やや不熱心」、「不熱心」=「熱心に取組まなかったグループ」。

「身についた」=4、「やや身についた」=3、「あまり身につけていない」=2、「身につけていない」=1として平均値を算出。

○学部卒業生の
「専門科目(実験
除く)」に対する熱
心度と「現在身に
ついている能力」
の関係



専門科目に熱心に取組んだ人ほど現在身につけている能力の自己評価が高い。しかし全学よりもその差は小さい。

3. 各部局との連携 - 「連絡票」のお願い

連絡票（学部→高等教育推進機構 IR 担当）

この連絡票は、卒業生調査の結果が、具体的にどのような教育改善への取組につながっているのか、あるいはつながる可能性があるのかについてご教示いただくためのものです。教育改善のためのモデル構築に向けて、参考とさせていただきます資料です。ご理解とご協力をお願いいたします。

1. 卒業生調査結果の取扱いについてお知らせください。
 - ・ 学部内へ周知しましたか。周知はどのような方法で行いましたか。

 - ・ 結果から、教育改善へつながる取組が検討されましたか。検討された取組案がありましたらお知らせください。

 - ・ 実際に決定、開始されている取組はありますか。ありましたら、具体的な取組内容と、経過についてお知らせください。

2. 貴学部において、本学全体のデータと比較したい項目、及び分析の要望等がありましたらお知らせください。（すぐには全てのご要望への対応は難しいですが、貴学部と連携の上、IR 担当として取組を開始します）

3. 各部局との連携-連絡票のお願い

この連絡票は、卒業生調査の結果が、具体的にどのような教育改善への取組につながっているのか、あるいはつながる可能性があるのかについてご教示いただくためのものです。教育改善のためのモデル構築に向けて、参考とさせていただく資料です。ご理解とご協力をお願いいたします。

A. 卒業生調査結果の取扱いについてお知らせください。

1. 学部内へ周知しましたか。周知はどのような方法で行いましたか。

- 平成26年6月13日の学科長会議において、教務委員長より結果が報告された。
- 6月11日開催の研究科FD委員会において、調査結果を報告し、意見交換を行った後、6月19日開催の研究科教授会において、FD委員会委員長から教授会構成員に対し結果の概要を口頭で報告した。

2. 結果から、教育改善へつながる取組が検討されましたか。検討された取組案がありましたらお知らせください。

- 今後、研究科FD委員会において、調査結果の分析を行ったうえで、教育改善へつながる取組の実施について検討することになった。
- 教務委員会にて意見交換を行ったが、データ数が少なかったため、今後引き続き調査を行い、データを蓄積し、教育改善へ活用していくこととした。ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー作成の際の参考資料とする。

3. 各部局との連携-「連絡票」のお願い

3.実際に決定、開始されている取組はありますか。ありましたら、具体的な取組内容と、経過についてお知らせください。

- 教育改善では無いが、○学部独自アンケートで情報発信力の低さが判明したため、広報委員会において、HPの充実や学部案内の改訂を進めている。

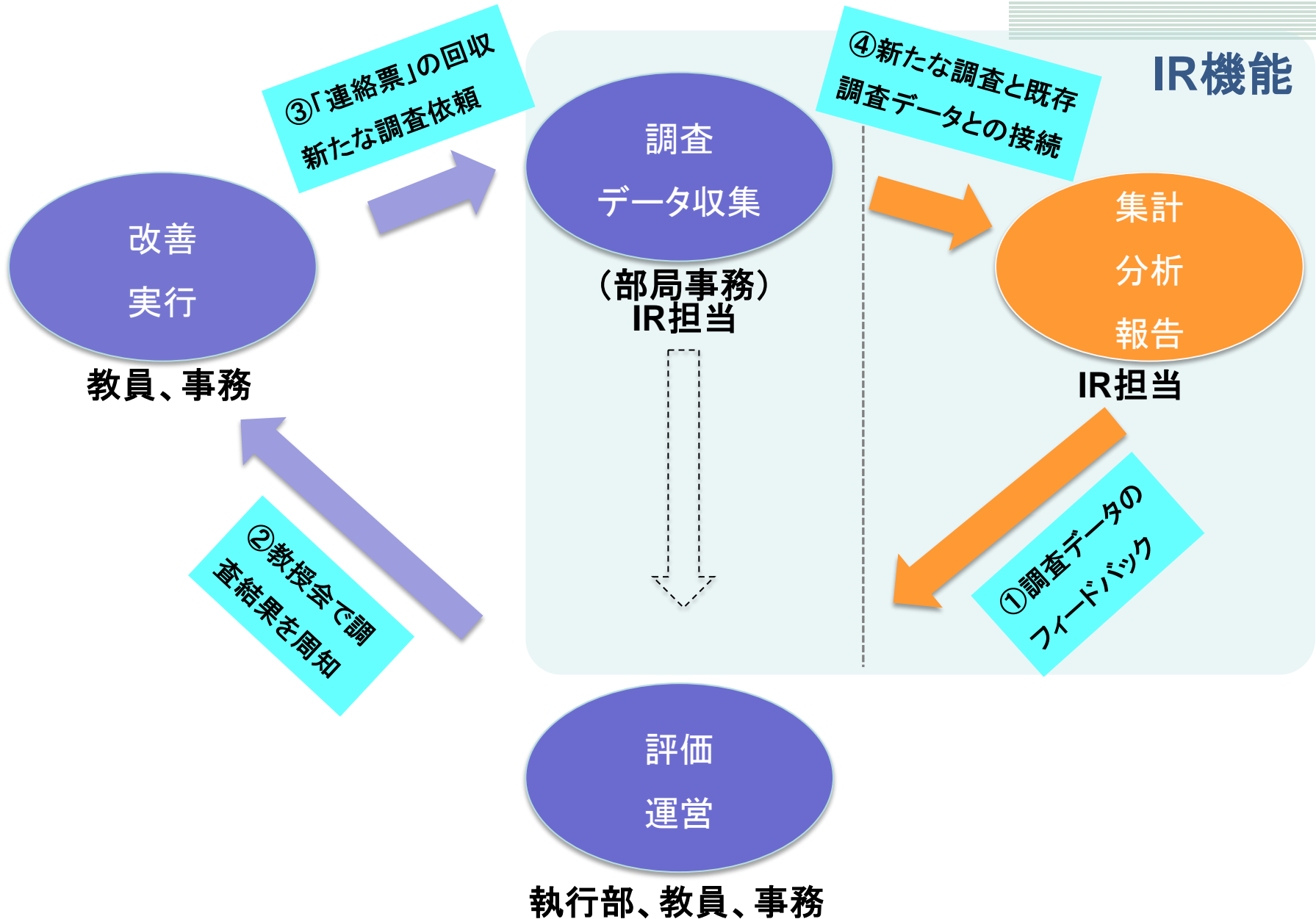
4.結果から、教育改善へつながる取組が検討されましたか。検討された取組案がありましたらお知らせください。

- 今後、研究科FD委員会において、調査結果の分析を行ったうえで、教育改善へつながる取組の実施について検討することになった。

5.貴学部において、本学全体のデータと比較したい項目、及び分析の要望等がありましたらお知らせください。(すぐには全てのご要望への対応は難しいですが、貴学部と連携の上、IR担当として取組を開始します)

- ○○学部実施の卒業時アンケート結果と卒業生アンケートとの比較、分析を要望します。

4. まとめ - IR担当の位置づけ



4. まとめ - 教学改善サイクルの試行

- ◆ 北大IR調査によって得られた、調査データのフィードバックを通して、各部局との連携の糸口を探る。
- ◆ 「連絡票」を通して、各部局内でのIRデータの周知と教育改善のための取り組みを動機づける。
- ◆ 「連絡票」を通して、各部局にニーズに対応したデータの収集、分析を行い、フィードバックする。

部局横断的なデータの取得、他大学との比較



分析の広がり

大学→学部→学科→専攻→個人



分析の深まり